□議員名：松尾数則

1 少子化に対応した学校づくりについて

論点	小中一貫校の成果について聞く。
回答	小中一貫校では、9年間を通じた教育活動が展開されることで、児童生徒は多くの教職員と関わりながら成長する。また、小学生と中学生が日常的に交流することで、中学生は小学生の手本となり、小学生は中学生に近づこうと努力するなど、教育的な効果が得られる。同じ施設で9年間学ぶことにより、「中一ギャップ」が軽減され、児童生徒は不安なく中学校生活を始められる。

論点	小中学校のクラブ活動に対する考えを聞く。
回答	厚陽中学校だけでなく、今後は学校の枠を超えた部活動が増えていく。能力のある方は、他の学校と連携した部活動に参加したり、地域のクラブチームで活動したりすることで、柔軟に対応できるようにしたいと考えている。

論点	今後の少子化に対応した学校づくりの方向は、小中連携とか、小規模特認校とかで対応するのか。
回答	今後は、生徒数の変化を見据えながら、校長や地域の方々、その他関係者の皆様と対話を重ね、慎重に検討しながら進めていきたいと考えている。

2 農村RMOによる農業施策について

論点	地域おこし協力隊の活用について聞く。
回答	現在2人の協力隊員が活動している。地域の特産品を活かしたまちづくり、SNSやメディアで市の魅力を伝える仕事等地域の課題解決に役立っている。隊員の増加については、まずは地域の課題を整理し、それをどう解決するかを考えてから、適した人を募集していきたい。

論点	農用地保全の具体策について聞く。
回答	中山間地域では、国の支援制度を活用しながら、農業の継続を支援

	<p>している。農地や施設の維持管理を進め、地域が協力しながら農業を守る取組が広がっています。しかし、農業者の減少や高齢化により、支援の継続が難しくなる課題もあり、さらなる環境改善が求められている。</p>
--	---

論点	農村RMOの形成について聞く。
回答	<p>山口県はまだ事例はないが、中国地方では14か所で取り組まれている。ゼロから組織をつくるのは大変なため、既存の組織を活用して立ち上げるパターンも多いようである。農村RMOは持続可能な地域づくりの重要な手段として期待されており、市も地域の動きを支援し、国、県の事業の進展を注視する方針である。</p>

論点	農村RMOについて、市の姿勢、取組について聞く。
回答	<p>地域が協力して、まちづくりや農業の発展に取り組み、農村RMOを活用することで、農業や環境保全に役立つと考える。市も、その活動を支援していく方針である。</p>